1955年冬山参加隊員

（出発順）

22日発　沢田　榮介　鈴鹿市神戸飯野寺家町（神戸252）
　　石原　国利　下宿先 東京都世田谷区深沢町1の47 三田陽兵衛方
　　若山　五朗　愛知県海部郡佐織町見越（呼出 津島2211 山本方）
　　南川　治資　津市古河（津2582）

25日発　石原　一郎　福岡県直方市殿町

27日発　高井　利恭　三重郡楠町本郷　6日朝名着
　　高井　吉史　（三瀬谷局104）宮川ダム 南発電所 6日朝楠着
　　〃

30日発　上（カミ）岡　謙一　福岡市比恵本町三丁目860　6日朝名着九州へ

1日発　松田　武雄　鈴鹿市神瀬着町（神戸423）
　　室　敏通　〃　神戸河町（神戸238）5日夕神戸着
　　森　泰造　四日市市沖の島町 森克己商店（四日市2926）
　　北川　たづ子　津市榮町（中転は津1800）
　　太田　清嗣　鈴鹿市北長太町（楠34）

攻略目標　前穂 四峰正面　北條・新村ルート
　　松高ルート
　　明大ルート
　　前穂 四峰東壁
　　北尾根

救援隊員

（出発順）

1955年1月3日
名古屋発 ~~20朝~~8.05
　　石岡　繁雄
　　赤嶺　秀雄
　　新井　春郎
　　三林　隆　　6日朝名着　3日夜12時上高地ホテル着

3日夜 新宿発　清水（シミズ）稔　　4日　上高地ホテル着
　　~~松本の医師~~

4日名古屋発朝10.　若山　英常（ツネ）太氏　　松本 飛騨屋旅館で待機

4日名古屋発 夜行　中道　恵
　　佐藤（モンノ）茂生
　　西川　忠行
　　黒田　吟哉　　帰師
　　大北氏（名大）　6日朝名着帰
　　岩瀬氏（名大）　6日朝名着帰
　　若山富夫氏
　　~~中河氏（三重大）~~
　　浅井美利義成
　　毛利広昭（三重大）

5日 台ヶ原には ホテルに着いていた。室と、雲南の滝ですれ違ったわけ

小山義治
飯田太（つよし）
（詰り大学丸田外科）　　4日 ~~清水ダム~~ ホテル着 夜

現地からの連絡と處置

第1報（電話）

1. 1月2日午後七時　長距離電話　上高地発島々経由

石原一郎発　『1日. 国利(石原)　榮介(沢田)　五朗(若山)　東壁アタック
第二テラスに出たこと確認. 其の後ガスのため消息断つ. 同夜オカシ.

2日. 上岡・高井　A沢を登り. 前穂頂上附近まで捜索するも足跡なし. 故に登路を失い下降しつゝあるものの如し. 正午頃石原　天幕地を降り　午后7時頃　島々着
(註. 島々着とあるは受信者の誤りで石原氏は上高地まで降って電話をかけたものである)

2日午後7時現在　吸巻に　松田. 太田. 北川.
上高地に~~島々~~に　室. 森

尚　2日午前　関西登高会の方が又白池に来たので捜索を依頼　』

石岡氏及伊藤經男(社長)　受信

第2報（電報）

2日午後9時着電報　発信者は石原一郎氏で　おそらく上高地から島々まで電話　島々から電報にしたものであろう.
内容は　左頁の石原氏の電話と同様.

『ゴロウ　サワダ　クニトシ　トウヘキノボリ　カエリニ
フブキノタメ　マヨウ　』

石岡氏及伊藤經男氏　受信

第3報（電報）

3日午后5.50着　島々4.16.40局発　石岡氏発

『アタラシイ　シラセナシ　シゲオ』

第4報

3日　23時45分 — 24時15分　電話

『16.30　バッカスは島々局に寄ってハイヤーで上高地に向う
山吹トンネルにてハイヤーを捨て、養魚場の息子さん（稲核より同乗）と共に上高地に夜中の10時30分に到着
バッカス、赤嶽、新井、三林　ホテルに到着し待機する
石原国利、沢田繁介、若山五朗の三名　御訪多ガイドブックでいうところの第二尾根から応答を得たとのことで望みあるとのことである。救援隊全員現場に向ったとのこと。
現在隊員の居所　石原、森、室の三名はベースまで
到着待機中　松田、太田、北川の三名は養魚場で
待機中　バッカス、赤嶽、新井、三林はホテルに
到着
凍傷治療準備、救援隊の出発準備をせよ』

處置 1. 若山宅へ電報「ゴロウソウナンラシイ シゲオタツバンゼンノテハイアリアトシラス」
2. 石原宅へ「クニトシソウナンラシイ バンゼンノテハイシタ イサイワカルマデマテイシオカ」
3日午后8.30発

第5報　1月4日午前11.30受信 電話報　石岡氏発

~~『クニトシブジアンシンセヨ イシオカ』~~

『国利、沢田無事又白のテントに救出、五朗ザイル切れ落ちた。全力で遺体捜索中
二名の状態、凍傷程度の如何により徳沢まで下れるかも知れない（註 4日中に）
見越え次の連絡せよ。電文「父上母上最大の不幸をお詫びします。しかし他の2名が無事だったことを感謝します」
若山富さんに見越え行ってもらいたい　新聞社へは連絡しないで處理すること』

處置 1. 見越え、バッカスの電文を直ちに発信と共に敏子夫人が見越へ4日の午后行った。
2. 石原氏宅九州へ電報「クニトシブジアンシンセヨイシオカ」
3. 石原国利氏下宿（東京都世田谷区深沢町1の47 三田彌兵衛宛）へ電報「クニトシブジアンシンセヨ イシオカ」
4. 三林隆の欠勤届は、西川が三重県松阪購買農協組四日市支所長へ直接挨拶して手渡した。
課の方の連絡も出来た（西口氏に）

第6報　4日午後1時15分受　上高地バッカス発電話

『沢田　足凍傷悪いが　自分では良いといって大変元気
4日中に上高地まで下る予定
岡村は全然元気
中道氏へ連絡せよ　名大から凍傷の権威者2名今夜
夜行で発つよう依頼してあるから一緒に来てもらう
ように』

処置　4日午後1時30分　新聞記者からの電話がうるさいので
中道社長　本田氏　その他会員多数立会いの下に
石岡氏宅にて　情況を報せてやった。

発表文
「1時15分島々局経由上高地にて石岡栗雄氏の
連絡によれば　石原　沢田は天幕に収容したが
生命は無事であった　残る一名の若山は捜索
中であるが不明　遭難原因はザイルの切断に
よる墜落らしい」
（註　中日新聞だけには　鈴木氏に13.00本部に来てもらって
先に連絡し　~~その他には~~　その後　中日も共に上記の
発表を行ったもの。）

第7報
4日19時10分　上高地バッカス発電話

『中道氏は松本にて若山常太氏と合流するように。
名大医学部　大北、岩瀬と富さんが同行（名古屋から中道
氏等と）する予定である。
石原と沢田は養魚場まで降っている　松本から
間もなく医師が来る予定なので　清水（ごうちゃん）の
案内で養魚場まで行って治療に当る予定。
若山は依然行方不明』

処置　出発準備中の中道氏に直ちに連絡。ウイスキー　カメラ　毛布
謝礼　発見した時用
黒田、佐藤モニク、西川宏　神戸発19.20。
中道氏　20.20神戸発

第8報　4日21時10分　上高地バッカスより電話

『見越のお母さんが行きたいといっているが　上までは
来られないから　坂巻までなら来てもいい。
その時には　敏子夫人に一緒に来てもらうか
上高地から北川さんを迎えに下してもよろしい。
その旨　津島に連絡して返事せよ。
もし五朗が見付かったとき　上高地まで降せないから
富さん　常太氏　立会いの上　奥又の出合で火葬に
する予定でいる　お母さんは従って　海を見ることは
出来ないことになる
現在まだ　見付かったという連絡はない。』

処置　直ちに見越に意向をきいたら　御両親共もう行かないと
いっておられた旨　22.10分　バッカスに電話した。

第9報 2 4日 午后10.10 上高地バッカス ⇄ 河町本部

河町から「見越へ21時すぎ連絡したところ 行く必要なしとの返事がありました。」

バッカスから『
国利・沢田の状態 石原は凍傷全然なくとても元気である。沢田は両足に凍傷にいるため養魚場からかついで降しつつあり間もなくホテルに着く予定。既にホテルに松本の医師が着いている
当夜から（4日夜から）明日にかけて全力で捜索中であるが 明日で捜索は打切る予定である 明日は五朝が分ると思う』

河町「今晩そちらから連絡の見込あり」

バッカス『連絡はない予定である』

河町「五日以後の行動予定を立てつもらいたい」

第10報 3

5日午后1時15分 バッカス 上高地発電話

『沢田栄介 石原国利は無事上高地着 非常に元気で食慾もある。
沢田は右足指先の凍傷ひどく、そりで下山する予定である。発熱していない

五朗は今回は猛吹雪のため行方不明で、テントの方も心配しているが 小山氏以下強力なメンバーだから大丈夫だと思う

社長は出発までに一応上高地に連絡してから出発してもらいたい。

室は五日朝上高地から下山、今夜中に（五日夜）神戸に着く予定。
高井も今日中に上高地を発って今夜の徒行に乗る予定。
（石原、沢田二人とも電話口にあて）（元気であると云った。沢田は兄とも電話で話し出来た。）
中道代表一行10名は未だ上高地に着いていない。

處置
1. 新聞社が通話毎にうるさいので 記者クラブへ連絡。
2. 沢田はうちに報告に帰る。
3. 上田夫人（遠藤）中配鈴カと津へ、北川、松田の分ホン屋 高井の分ホン屋 宮川ダム南発電所へ郵送。

第11報

5日台 5.00　上高地バッカスより電話

電話きっとりがたし。

『中道氏一行 上高地に到着した
沢田は今 下山途中で 5日の夜行に乗るつもりをしている。
中道氏、黒田哲吟は 2.3日 上高地に居残る
現在 テントにおるのは 石原、松田、三林、太田
南川
五朗は依然として不明で 上からの連絡はない。
テントとの連絡のため 小山氏、森泰造がテントに向ったが ものすごい吹雪のため 途中から引返した。
石原氏等の顔をみるまでは下山の予定はたつない。
河野に多勢つめている必要もないから休んでもらうように。今夜は電話しない予定だ』

處置　1.　沢田鶴松氏に 早ければ明朝帰宅される旨 電話した。

2　沢田喜太郎、今井、の二人 ~~20.40~~ 21.20 神戸発 名古屋へ行き早朝 沢田を名古屋に迎える

第12報（報告及伝言）

室敏彌君 ~~22時~~ 20時30分 到着

1日朝 3人出発　第2テラスに晝までにおる予定が 晝までに第2テラスに着かねば引返すことになっていたが
午後3時になり、尚登ることとし、頂上直下 20mで
オカン、翌2日朝、国利トップで登ったが 3mストップした時止った
~~翌2日~~ 今度は五朗ちゃんが トップに 脱落れて戻った なり、カラビナ通さず に 70cm スリップ。ザイに ~~ザイに~~ を岩角にかけただけであった。8mm. 40m ナイロンザイル、新品、岩角で切れた。沢田はラスト。
落ちたことは 2日 ~~夜3時になって~~ 午後4時 高井兄、上岡二人によって 初めて分った。

2人共 伍朗氏の落ちた場所で ~~[illegible]~~ 動けなくなり、その晩も オカン（その場で）したわけ。
ツェルトだけ
高井達は 2日の午四時 で人と話をした。
それで落ちたことが 初めて分った。
12本のハーケンがあったが カラビナは5つ。
ハーケン 7本 落し、最後のアップザイレンにピトンが不足するに至って 確却もあまりなかった。

高井が天幕に急報　石原、高井第二人は
上高地に下り、電話した。途中、南西登高会、早田に依頼
Bルンゼ Gルンゼに落ちたものに違いない。

3人は B沢をつめ、Cフェース 北壁 — 第一テラス、Bフェース 第2テラス
Aフェース 途中で オカン。2日間2晩 同じ場所でオカンしたわけである。

（室2談）

3日には、石原氏があらず。それで、早田4人

関西登山会（梶本氏以下10人位）、西系ヤ2人　も共に、

校出　3日11時（第15号）　2人とも元気であった。

室がA沢にかかったとき、上から下りて来たわけ、

意識も元気も旺盛であった。

沢田は足が凍傷　特に右足が悪い。

国ちゃんは、右手の指がいたい左耳がいたい　足は

靴がよかったので大事なかった。

天トの中で、湯の中でもんだ。足は痛かった

沢田は靴足なくつ（アイゼン）だったので凍傷になったものである

4日　室は、徳沢を経て上高地に下り、再び徳沢に連絡に

行くのに丁度沢田達一行に出会った。

4日はいい天気だったが5日今日は悪い。

高井、ニューギニヤは2日間の捜索でフラフラ。

松田　三林　太田　石原氏が4日天幕に上り、

捜している。

（室3談）

5日はとても捜せない。天候非常に悪い。

中道さん達10人とは、雲間の遠Pは近で会った。

それまではいつも、五朗ちゃんがミッテルだったが、

2日夜明、一寸のところが全然登れず。

国さんに変って、五朗ちゃんがトップにになった。

岩にかけてつり上げようとした（バツカスの注イを忘れてしまっていたものである）（バツカスは残念がっていた）それ以上詳しく

きいても、2人は近きだあので、詳しくはきけない。

食欲旺盛で、ズンズン疲れ、と云った。それを抑えるのに苦労した位である

雪洞はとても立派で、2人が2晩（同じ場所で）~~オカシ~~

ツエルトだけで、岩壁の途中で泊った。

体力は知らず、気分的にはもう1晩ならもっと悪うと云っていた。

高井の呼び声に僅かしか返事出来なかった。

声が出なくて、5回呼んでも1回位しか返事出来ぬ。

救援をおめて上ばかり見ていたので、首、肩が痛いといっていた。

5日は、そりには丁度よく、スキーには少~~ムズ~~ムズ

タクシーは沢渡までなら入れる。

處置　1. 室から直接沢田氏宅へ電話し、沢田君の、

最も近い情況を報せた。

2. 今井、沢田兄　2人は、名古ヤへ21時出発。

3. 松田、太田、森へ室から直接電話報告。

（室内談）

2日に高井、上岡氏 2人が行っても、1人が降って結びつけ
1人だけで、引張り上げねばならぬ それは困難だから、
声を聞きたら高井は引きとげた（又白に）
3日には10人でやっと吊り上げることが出来たのである。

早田、4人　西糸屋、2人　上岡高井
関西登高会2人

下界への急報と、2人を救けるのと どちらを先にすべきであったかは、軽々に論じることは出来まい。

石原氏は又白に岩技会だけしかいなくて、困ったので下に下ったわけである。下りる途中で関西登高会に会い依頼、徳沢で早田に依頼、ホテルで下界に電ワしたわけである。

最初新聞に漏れたのは、太田が自宅へ言ったことから始ったためかも知れぬ。（本田、石岡田堂）

バッカスからの伝言

1. 発見されたら暇があれば、一緒に行動した人は、ダビに附すときに参加した方がよい。
2. 五朗のことだからはっきり云えるけど（他の人だったら云えないが）死体が見付かっても、危険だったら打切って初夏を待ってもらいたいと思っている
3. 詳しいことは室に語ってもらう（現場の情況について）

今井、沢田兄の5日夜泊った旅カン　名ゴヤ駅前長谷川旅カン ㊿ 1630 沢田宅へ伝えた
石11.15

第13報　6日 朝 6.25
名古屋にて　沢田兄発電話

『今 汽車で降りて来た。メンバーは、名大の先生2人
赤嶺先生、高井兄、高井弟、そして、沢田弟である。

榮介は、しょげている
今から、名大病院に入院して、9時に診察を受けることになろうと思われる。

病院に行くメンバー
沢田弟　名大の先生2人、赤嶺先生、高井兄、今井、沢田兄

帰宅する人
高井弟　神戸へは電話連絡することになるかも知れないとのことである。つまり、すぐ神戸に行くとは限らないの意

以上報告。いづれ病院から又電話する
沢田の家に連絡願う』

處置 1. 沢田氏へ電話　沢田氏、名古屋へ行くつもりであるとの通事
2 本田氏、中道へ電話「神戸駅出迎えの要なし」

第14報　6日前10.17. 河原田より高牛吉史発電話

『沢田榮介の凍傷はあまり心配しない方がよいということが云える。

国刈さんは2,3日上高地におって、歩けるようになったら自分で下る　といっていた。

五朗さんの捜索は、現在　石原、松田、太田、新井、南川があたっており、小山さん、西系屋　2人は昨日5日の朝　天幕へ登って行った。

黒田吟哉は上に上って行ったが、同級生の二人西川、佐藤モンの2人は、沢田を、沢渡まで下したあと、バイヤーに乗れないから、この二人は、今日の汽車で帰ってくる。

赤嶺さんは、今晩までには当然帰ってあろう。

新しい応援はいらない。

ホテルでは、木村さんが石岡氏と打切ってはどうかと話していた

上田さんは、一緒の汽車に乗って名古屋に降りたが、すぐ博多行があったから　今朝、九州へ帰って行った。』

第15報　6日前10.40　名大病院より　沢田兄発電話

『今入院した　2晩寝ていないので、沢田榮介は　寝ゝて今　眠っている

診察はまだだ。

連絡　名大病院　今永外科　1号詰所に願う。 代表電話、名古屋 (73) 1521

』

處置　1. 沢田氏宅へ電話して　上記連絡。

2. 社長他2名分の中央線今夜の乗車券は、払戻し又は他に転用するよう取計った。

3. しかし、社長がすぐ三宅から帰って来て、再び、切符の払戻しは取止めた。(右1時半)

第15報　6日午後14.47—14.53 上高地バックス発電話

「沢田の模様はどうか
社長上ってくれ。今夜あてもらいたい
持ってくるもの
ゲルト　2万
油紙　5枚
伊ソウ帯5箱
50cc 注射1本　　中道氏から依頼
生肉
野菜 ネギ　　すまやまたのん
国利、石原　神戸にあづけ持ってもらいたい。みんなが揃うまで
五朗は全然分らない。
小山氏他5名　今日又山へ登って行った。
森泰造は　8、9日に帰る
富士氏、英太氏　帰った
見越から電話で　ソウサク打切れといってきた。
おばあちゃんの手紙見た。拝の手紙はまだ見ない」

處置
1. 森泰造に電つけて 8、9日帰ることを伝えた。
2. 社長、林、上田と三人行くことに決定
3. 中道氏に製品用意依頼
4. 上田は学校に報せたが　自宅にはしらせてないから
7日、朝～晝に電報で
サダオ　シヤチヨウトカミコウケニユク　お願いす。

第16報　15.25 今井 沢田宅 赤塚先生 着

沢田は病院で治ビ有ている
主任はいないが　うまいけば、切断しなくてすむ。

○ 6日午後8時30分 ~~帰~~
佐藤、西川　帰宅。
昨夜、沢渡に宿泊。バスにて名々に出る。松本駅。
午後13.01分の列車に乗る。

~~沢田報~~
~~7日 午後2時30分　上高地発バックス。~~
~~○今日天幕を撤収、上高地へ下る。明8日の社行にて松本を発の帝国~~
~~○名古屋より すでに名古屋 石原先輩が見越の意向を聞き 返事せよ。能ふ人も名古屋まで出向いて呉れないか。~~

處置
~~① 上田先生の父親宅、塚越、自宅へ電報、電話をかけた~~
~~② 新井、三林、北氏、時枝、上田、松田、清水、太田、南川宅へ 8日朝帰ることを連絡した。北川さんは山川さんに頼んだ~~
~~③ 見越の迎えはバックス一人でよいとの事。~~

第17報.　7日 午后3時5分　長々より(バックス)

全員 テントを降りる (五郎 探ぶせど不明の為断念する)
全員 8日の夜行にて帰省する. 9日の朝5時頃に
名古屋着.
社長、上田先生 上高地へ無事到着す.
見越の方へ電話で知らせてくれ.

處置. 1. 全員の帰省を各宅へ連絡する.
2. 見越へ電話してその結果を長々宛へ電報を打つ.
3 新井, 三林, 紅松, 吟味, 泰造, 上田, 桜田, 太田, 南川, 北川, 清水 宅へ連絡した
4 見越の意見はバックストでよいとのこと.

第18報.　7日 午后7時20分 神戸より上高地へ
見越の意見を伝えた所 全員直ちに名古屋より帰宅
するとのことであった

処置. 見越へ連絡事項
バックスも名古屋からすぐには見越に行かないことを伝える

緊急処置を必要とするもの
~~農林警察署への捜索願を提出する事~~.
(その際に2,000円位の物を贈る事.)
~~捜索願の用紙を用意する事~~.

最終報
9日朝全員名古屋着　中道・上田は先に神戸へ帰り 残り全員は見越へ向う。見越より帰りてからは名古屋より毛利・浅井・南川は名大病院へ行き その他は石岡夫人と共に全員 12時18分神戸着にて帰宅する。
同日夜 泥田栄介市役所救急車にて帰宅する。

以上で全員帰宅したわけである。

石岡 繁雄　鈴鹿市神戸河町（神戸156番）
名古屋市昭和区山手通 2の14
名古屋大学東区南外堀町名大学生部教ム課 ④1711

石原 一郎　福岡県直方市殿町

赤嶺 秀雄　鈴鹿市平塚池町（鈴鹿41 渡辺館店さん呼出）

伊藤 經男　〃　神戸北新町（神戸172）

中道 惠　〃　神戸本多町（神戸322）

上岡 謙一　福岡市比恵本町3丁目860

松田 武雄　鈴鹿市神戸南宝町（神戸423）

室 敏彌　〃　神戸河町（神戸238）

森 泰造　四日市市沖の島町 森克己商店（四日市2926）

髙井 利恭　三重郡楠町本郷

髙井 吉史　（三瀬谷局104 多気郡三瀬谷町佐原宮川南発電所）

清水 稔　鈴鹿市北若松町 清水醸造所（若松11）
千葉県市川市真間 長崎宅方

北川 たづ子　津市紫町
津市軍屋敷町 中部電力津支店（津1800）

沢田 榮介　鈴鹿市飯野寺家町（神戸252）

石原 国利　下宿先 東京都世田谷区深沢町1の47 三田鋼兵衛方

太田 清嗣　鈴鹿市北長太町 太田醸造所（楠34）

新井 春郎　鈴鹿市本多町
名古屋市昭和区 名大附属病院 伝染病棟第五研究室

三林 隆　神戸北知田部町 四日市市浜田 三菱曹連四日市支所
資材課（四日市4161）

若山 五朗　愛知県海部郡佐織町見越（津島2211 山本さん呼出願）

（父）繁二　津島市今市場町4の9 昭和紡機株式会社常任監査役（津島2117 2118）

若山英常太（ツネ）　名古屋市東区　千代田電機株式会社（⑨4572）

若山富夫　岐阜

✓ 谷本光典　（津島3314）谷本医院
~~名古屋市昭和区~~愛知県海部郡トグラ

中河留藏　（学校）津市上浜町 三重大農学部内（津162）
（自宅）三重大学第二農場内 河曲郡上野久知野（伊セ上野8）

浅井美成　津市上浜町 三重大農学部教内 総合農学4年

✓ 毛利克昭　~~自宅~~ 名古屋市東区長塀町 敷島パン研究室内（④1631）

✓ 南川治賓（バンピン）　自宅 名古屋市昭和区
津市古河（津2582）

須賀太郎　名古屋市

✓ 伊達忠雄　鈴鹿市下箕田町　（箕田郵便局）

大北　名大附属病院日比野内科

岩瀬　〃　〃

✓ 小山義治　長野県東筑摩郡波田村1735

✓ 梶本德次郎　（自宅）大阪市旭区新森小路南一丁目一二一

✓ 南西登高会　（勤務先）大阪日東株式会社
（事務所）大阪市北区葉村町1丁目 浅野氏方（28年山日記より）

✓ 加藤富雄　四日市市天欲賀 暁学園内

✓ 青木新治　津島市兼平町一丁目

✓ 鈴木嘉男　海部郡立田村 蟹ケ森（沢渡まで登って下さったとき我々とお会い川返した人）

✓ 大橋進　津島市今市場三丁目

✓ 飯田太　信州大学生　信大病院気付

黒田 吟哉　鈴鹿市中箕田町　（神戸239）
佐藤 茂生　〃　野辺町
西川 忠行　〃　北堀江町（黒田の家から100m）

本田善一郎　鈴鹿市神戸北新町　（神戸12）
今井喜久郎　〃　〃　〃　（神戸372）
中道 耀　〃　〃　本多町　（神戸322）
岩佐 弘　〃　〃　小山町
長谷川芝男　〃　千代崎町　（若松123）（伊文具店神戸48）
沢田壽太郎　〃　飯野寺家町　（神戸252）
林 邦美　〃　北長太町
山下 弘　〃　北長太町
毛塚一男　〃　西玉垣町　→ 野町駐在所で呼出し願う　東土木出張所（神戸29）
稲垣 達　〃　河町
上田 定夫　亀山市安坂山町1579　電話連絡あまりに不便だ
亀山高校（亀山144）

野登局4番　農業組合に帰り途伝言たう。

早大関係の人々（早大山岳部部室与付）
鳴原啓佑　浦和市元町3の146
日下田実　栃木県益子町
寺谷昌恭　文京区駒込神明町
安藤英弥　杉並区阿佐谷

信濃毎日新聞記者
✓ 清口直　松本市二の丸町三一（松本本社 TEL 2998 or 240）

朝日新聞記者
✓ 小林農　松本市大名町七四（朝日新聞松本支局）

[redacted]
三重大学学芸学部
助教授
✓ 美宅政盛　津市広明町八五番地
✓ 同事務長　中元勝助 TEL 津2110

✓ 西尾屋　松本市上土町 坂本方
✓ 銀ちゃん（小林銀二郎）宅 玄関

✓ 島々郵便局
✓ 松本タクシー
✓ 松本駅
✓ 名古屋駅
✓ ひだや旅館
✓ 梅花
✓ 駅横 西村屋
✓ 大正池 貸舟
✓ 帝国ホテル 木村さん

亀山高校山岳部　伊藤忠夫

岩瀬正次　名古屋市昭和区鶴舞町　名大医学部病理
石田石四郎　東京都杉並区神明町46小林方

一月二日

「ゴロウ サワダ クニトシ トラヘキ ノボリ カエリニ フヂキノメ マヨウ」

私達の悲しい事件は二月電報から始まった。新しい年の二日目、新春を祝ひつゝあった気分もどこへやら私達の心は一瞬の間に雪と氷に閉ざされた上高地から又日比へ更に芳穂東部のAエースへと追ひやられた。

何はともあれ会員へ事件の発生、救助の人々安否を電報、電信にて連絡する次への連絡の終ったのは翌三日の午後二時頃であったろうか、取りあえず、石田、広ミネと年末より御在所に行っていた三林、新井の四名が明日の朝出発することになる。

一月三日